

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の有価証券の評価は、償却原価法により行っている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

定額法による減価償却を実施している。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給付の要支給額としている。

(4) 消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位 円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	14,080	0	14,080	0
投資有価証券	39,985,920	14,080	0	40,000,000
小計	40,000,000	14,080	14,080	40,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	390,230,917	420,726,745	358,274,920	452,682,742
減価償却引当資産	36,731,957	45,329,161	42,183,997	39,877,121
小計	426,962,874	466,055,906	400,458,917	492,559,863
合計	466,962,874	466,069,986	400,472,997	532,559,863

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位 円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	0	(0)	(0)	—
投資有価証券	40,000,000	(30,000,000)	(10,000,000)	—
小計	40,000,000	(30,000,000)	(10,000,000)	—
特定資産				
退職給付引当資産	452,682,742	(0)	—	(452,682,742)
減価償却引当資産	39,877,121	(0)	(39,877,121)	(0)
小計	492,559,863	(0)	(39,877,121)	(452,682,742)
合計	532,559,863	(30,000,000)	(49,877,121)	(452,682,742)

4. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位 円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
第33回 大阪府公債	400,000,000	40,012,000	12,000
第152回 大阪府公債	191,702,016	192,000,000	297,984
平成30年度第3回 札幌市公募公債	99,910,400	100,082,000	171,600
123回 共同発行市場公募地方債	20,664,385	20,724,000	59,615
合 計	352,276,801	352,818,000	541,199

5. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位 円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息への振替額	94,560
合 計	94,560